

6課

祈りの戦士

5月9日

安息日午後

5月2日

暗証聖句

わたしは主を愛する。主は嘆き祈る声を聞き/わたしに耳を傾けてくださる。生涯、わたしは主を呼ぼう。(詩編 116:1、2、新共同訳)

わたしは主を愛する。主はわが声と、わが願いとを聞かれたからである。主はわたしに耳を傾けられたので、わたしは生きるかぎり主を呼びまつるであろう。(詩篇 116:1、2、口語訳)

今週の聖句

ダニエル 2:20~23、6:11、12 (口語訳 6:10、11)、使徒言行録 (使徒行伝) 20:36、創世記 5:22~24、出エジプト記 33:15~23、32:31、32

今週のテーマ

もしあなたが親友や配偶者とほとんど話をしなかったらどうなるか、想像してみてください。すぐに関係が崩れ、問題が生じることでしょう。それと同じように、祈りは、神との親密な関係を保つうえで欠かせないものです。祈りは、とても大切な神との交わりの習慣であり、私たち1人ひとりがそれを必要とし、強めることができます。頻繁に、そして継続的に祈らなければ、遅かれ早かれ、私たちは主から離れてしまうでしょう。

聖書には、さまざまな方法で祈ったさまざまな人の人生が記されています。神との交わり方が彼らと神との関係にどんな影響を与えたのか、私たちもどのように、何のために祈ることができるのか、また、彼らの祈りがほかの人の人生をどう変えたのかを、私たちは垣間見ることができます。次のことは真実です。私たちの祈りの生活は、自分自身だけでなく、ほかの人にも影響を与えるのです。

聖書研究と同様、祈りというこの主題も非常に大きく、重要であり、わずか2週間で扱える範囲をはるかに超えています。今週は、聖書の中の登場人物で、よく祈り、神との強い関係を築くうえで祈りがいかに重要であることを示した数人の人から、いくつかの教訓を学びます。彼らの模範から学びましょう。

ダニエルは、聖書の偉大な英雄の1人です。最初の物語もよく知られています(ダニ1章参照)。「ダニエルは宮廷の肉類と酒で自分を汚すまいと決心した」〔口語訳「ダニエルは王の食物と、王の飲む酒とをもって、自分を汚すまいと、心に思い定めた」〕(ダニ1:8)。また、ダニエルと彼の3人の友人は、「知識と才能を神から恵まれ、文書や知恵についてもすべて優れていて、特にダニエルはどのような幻も夢も解くことができた」〔口語訳「神は知識を与え、すべての文学と知恵にさといる者とされた。ダニエルはまたすべての幻と夢を理解した」〕(同1:17)。聖書はダニエルを「知者」として描いています(同1:20、2:14、21、23、48)。なぜなら、神の霊が彼の内に宿っており(同4:6、15〔口語訳4:9、18〕、5:14、6:4〔口語訳6:3〕)、彼が天から大いに愛されていたからです(同9:23、10:11)。これらは、神との間に強く永続的なつながりを持っていた人物に関する描写の一部です。

ダニエル2章では、ネブカドネツアル王がバビロンのすべての知者に死刑を宣告したとき、ダニエルは王の夢の秘密について神の憐れみを求めました(同2:18)。神がダニエルに王の夢を明かされると、ダニエルはすぐに祈りました。

問1 ダニエル 2:20～23 を読んでください。ダニエルはなぜ祈ったのでしょうか。この祈りから、私たちは何を学ぶことができますか。

時が流れ、王が次々に入れ替わっても、ダニエルは王たちの相談役であり続けました。「ダニエルには優れた霊が宿っていたので〔傑出しており〕、……王は彼に王国全体を治めさせようとした」〔口語訳「ダニエルは彼のうちにあるすぐれた霊のゆえに、他のすべての総監および総督たちにまさっていたので、王は彼を立てて全国を治めさせようとした」〕(ダニ6:4〔口語訳6:3〕)、「ダニエルは政務に忠実で、何の汚点も怠慢もなく、彼らは訴え出る口実を見つけることができなかった」〔口語訳「彼(ダニエル)が忠実な人であって、その身になんのあやまちも、とがも見いだされなかった」〕(同6:5〔口語訳6:4〕)と記されています。同僚たちの激しい嫉妬や悪だくみにもかかわらず(同6:6～10〔口語訳6:5～9〕)、ダニエルは常に一貫して恐れることなく、祈りの生活を守り続けました。

問2 ダニエル 6:11、12(口語訳6:10、11)を読んでください。これらの聖句は、ダニエルについてどんなことを教えてくれますか。

困難に直面したとき、ダニエルは祈りました。命が危険にさらされていたにもかかわらず、彼は一貫して粘り強く(いつものように、日に三度)、決まった方法で(エル

サレムに向かって開かれた窓際で、日に三度祈り続けました。彼の祈りは、(ひざまづくという)身体的な行為を伴い、感謝と嘆願に重点が置かれていました。

【参考】英語テキストにある文

In light of a story like this, how weak are your excuses for not praying?

このような話を踏まえると、祈らないというあなたの言い訳は、どれほど説得力に欠けるでしょうか。

40

ダニ 1:8 (新共同訳)

1:8 ダニエルは宮廷の肉類と酒で自分を汚すまいと決心し、自分を汚すようなことはさせないでほしいと侍従長に願ひ出た。

ダニ 1:17 (新共同訳)

1:17 この四人の少年は、知識と才能を神から恵まれ、文書や知恵についてもすべて優れていて、特にダニエルはどのような幻も夢も解くことができた。

ダニ 1:20 (新共同訳)

1:20 王は知恵と理解力を要する事柄があれば彼らに意見を求めたが、彼らは常に國中のどの占い師、祈禱師よりも十倍も優れていた。

ダニ 2:14 (新共同訳)

2:14 バビロンの知者を殺そうと出て来た侍従長アルヨクにダニエルは思慮深く賢明に應對し、

ダニ 2:21、23 (新共同訳)

2:21 神は時を移し、季節を変え/王を退け、王を立て/知者に知恵を、識者に知識を与えられる。

2:23 わたしの父祖の神よ、感謝と賛美をささげます。知恵と力をわたしに授け/今、願いをかなえ/王の望むことを知らせてくださいました。」

ダニ 2:48 (新共同訳)

2:48 王はダニエルを高い位につけ、多くのすばらしい贈り物を与え、バビロン全州を治めさせ、バビロンの知者すべての上に長官として立てた。

ダニ 1:8 (口語訳)

1:8 ダニエルは王の食物と、王の飲む酒とをもって、自分を汚すまいと、心に思い定めたので、自分を汚させることのないように、宦官の長に求めた。

ダニ 1:17 (口語訳)

1:17 この四人の者には、神は知識を与え、すべての文学と知恵にさとい者とされた。ダニエルはまたすべての幻と夢とを理解した。

ダニ 1:20 (口語訳)

1:20 王が彼らにさまざまの事を尋ねてみると、彼らは知恵と理解において、全国の博士、法術士にまさること十倍であった。

ダニ 2:14 (口語訳)

2:14 そして王の侍衛の長アリオクが、バビロンの知者らを殺そうと出てきたので、ダニエルは思慮と知恵とをもってこれに応答した。

ダニ 2:21、23 (口語訳)

2:21 神は時と季節とを変じ、王を廃し、王を立て、知者に知恵を与え、賢者に知識を授けられる。

2:23 わが先祖たちの神よ、あなたはわたしに知恵と力を賜い、今われわれがあなたに請ひ求めたところのものをわたしに示し、王の求めたことをわれわれに示されたので、わたしはあなたに感謝し、あなたをさんびします。」

ダニ 2:48 (口語訳)

2:48 こうして王はダニエルに高い位を授け、多くの大いなる贈り物を与えて、彼をバビロン全州の総督とし、またバビロンの知者たちを統轄する者の長とした。

ダニ 4:6 (新共同訳)

4:6 「古い師の長ベルテシャツアルよ、お前には聖なる神の霊が宿っていて、どんな秘密でも解き明かせると聞いている。わたしの見た夢はこうだ。解釈をしてほしい。

ダニ 4:15 (新共同訳)

4:15 これが、わたしネブカドネツアル王の見た夢だ。さて、ベルテシャツアル、その解釈を聞かせてほしい。この王国中の知者はだれひとり解き明かせなかったのだが、聖なる神の霊が宿っているというお前ならできよう。

ダニ 5:14 (新共同訳)

5:14 聞くところによると、お前は神々の霊を宿していて、すばらしい才能と特別な知恵を持っているそうだ。

ダニ 6:4 (新共同訳)

6:4 ダニエルには優れた霊が宿っていたので、他の大臣や総督のすべてに傑出していた。王は彼に王国全体を治めさせようとした。

ダニ 9:23 (新共同訳)

9:23 お前が嘆き祈り始めた時、御言葉が出されたので、それを告げに来た。お前は愛されている者なのだ。この御言葉を悟り、この幻を理解せよ。

ダニ 10:11 (新共同訳)

10:11 彼はこう言った。「愛されている者ダニエルよ、わたしがお前に語ろうとする言葉をよく理解せよ、そして、立ち上がれ。わたしはこうしてお前のところに遣わされて来たのだ。」こう話しかけられて、わたしは震えながら立ち上がった。

ダニ 2:18 (新共同訳)

2:18 そして、他のバビロンの賢者と共に殺されることのないよう、天の神に憐れみを願い、その夢の秘密を求めて祈った。

ダニ 2:20～23 (新共同訳)

2:20 こう祈った。「神の御名をたたえよ、世々としえに。知恵と力は神のもの。

ダニ 4:9 (口語訳)

4:9 博士の長ベルテシャザルよ、わたしは知っている。聖なる神の霊があなたのうちにやどっているから、どんな秘密もあなたにはむずかしいことはない。ここにわたしが見た夢がある。その解き明かしをわたしに告げなさい。

ダニ 4:18 (口語訳)

4:18 われネブカデネザル王はこの夢を見た。ベルテシャザルよ、あなたはその解き明かしをわたしに告げなさい。わが国の知者たちは、いずれもその解き明かしを、わたしに示すことができなかつたけれども、あなたにはそれができる。あなたのうちには、聖なる神の霊がやどっているからだ」。

ダニ 5:14 (口語訳)

5:14 聞くところによると、あなたのうちには、聖なる神の霊がやどっていて、明知、分別および非凡な知恵があるそうだ。

ダニ 6:3 (口語訳)

6:3 ダニエルは彼のうちにあるすぐれた霊のゆえに、他のすべての総監および総督たちにまさっていたので、王は彼を立てて全国を治めさせようとした。

ダニ 9:23 (口語訳)

9:23 あなたが祈りを始めたとき、み言葉が出たので、それをあなたに告げるためにきたのです。あなたは大いに愛せられている者です。ゆえに、このみ言葉を考えて、この幻を悟りなさい。

ダニ 10:11 (口語訳)

10:11 彼はわたしに言った、「大いに愛せられる人ダニエルよ、わたしがあなたに告げる言葉に心を留め、立ちあがりなさい。わたしは今あなたのもとにつかわされたのです」。彼がこの言葉をわたしに告げているとき、わたしは震えながら立ちあがった。

ダニ 2:18 (口語訳)

2:18 共にこの秘密について天の神のあわれみを請い、ダニエルとその同僚とが、他のバビロンの知者と共に滅ぼされることのないように求めた。

ダニ 2:20～23 (口語訳)

2:20 ダニエルは言った、「神のみ名は永遠より永遠に至るまでほむべきかな、知

2:21 神は時を移し、季節を変え/王を退け、王を立て/知者に知恵を、識者に知識を与えられる。

2:22 奥義と秘義を現し/闇にひそむものを知り/光は御もとに宿る。

2:23 わたしの父祖の神よ、感謝と賛美をささげます。知恵と力をわたしに授け/今、願いをかなえ/王の望むことを知らせてくださいました。」

ダニ 6:4~12 (新共同訳)

6:4 ダニエルには優れた霊が宿っていたので、他の大臣や総督のすべてに傑出していた。王は彼に王国全体を治めさせようとした。

6:5 大臣や総督は、政務に関してダニエルを陥れようと口実を探した。しかし、ダニエルは政務に忠実で、何の汚点も怠慢もなく、彼らは訴え出る口実を見つけることができなかった。

6:6 それで彼らは、「ダニエルを陥れるには、その信じている神の法に関してなんらかの言いがかりをつけるほかはあるまい」と話し合い、

6:7 王のもとに集まってこう言った。「ダレイオス王様がとこしえまでも生き永えられますように。」

6:8 王国の大臣、執政官、総督、地方長官、側近ら一同相談いたしまして、王様に次のような、勅令による禁止事項をお定めいただくということになりました。すなわち、向こう三十日間、王様を差し置いて他の人間や神に願い事をする者は、だれであれ獅子の洞窟に投げ込まれる、と。

6:9 王様、どうぞこの禁令を出し、その書面に御署名ください。そうすれば、これはメディアとペルシアの法律として変更不可能なものとなり、廃止することはできなくなります。」

恵と権能とは神のものである。

2:21 神は時と季節とを変じ、王を廃し、王を立て、知者に知恵を与え、賢者に知識を授けられる。

2:22 神は深妙、秘密の事をあらわし、暗黒にあるものを知り、光をご自身のうちに宿す。

2:23 わが先祖たちの神よ、あなたはわたしに知恵と力を賜い、今われわれがあなたに請い求めたところのものをわたしに示し、王の求めたことをわれわれに示されたので、わたしはあなたに感謝し、あなたをさんびします。」

ダニ 6:3~11 (口語訳)

6:3 ダニエルは彼のうちにあるすぐれた霊のゆえに、他のすべての総監および総督たちにまさっていたので、王は彼を立てて全国を治めさせようとした。

6:4 そこで総監および総督らは、国事についてダニエルを訴えるべき口実を得ようとしたが、訴えるべきなんの口実も、なんのとがをも見いだすことができなかった。それは彼が忠信な人であって、その身になんのあやまちも、とがも見いだされなかったからである。

6:5 そこでその人々は言った、「われわれはダニエルの神の律法に関して、彼を訴える口実を得るのでなければ、ついに彼を訴えることはできまい」と。

6:6 こうして総監と総督らは、王のもとに集まってきて、王に言った、「ダリヨス王よ、どうかとこしえに生きながらえられますように。」

6:7 国の総監、長官および総督、参議および知事らは、相はかって、王が一つのおきてを立て、一つの禁令を定められるよう求めることになりました。王よ、それはこうです。すなわち今から三十日の間は、ただあなたにのみ願い事をさせ、もしあなたをおいて、神または人にこれをなす者があれば、すべてその人を、ししの穴に投げ入れるというのです。

6:8 それで王よ、その禁令を定め、その文書に署名して、メディアとペルシアの変ることのない法律のごとく、これを変えることのできないようにしてください。」

6:10 ダレイオス王は、その書面に署名して禁令を発布した。

6:11 ダニエルは王が禁令に署名したことを知っていたが、家に帰るといつものとおり二階の部屋に上がり、エルサレムに向かって開かれた窓際にひざまずき、日に三度の祈りと賛美を自分の神にささげた。

6:12 役人たちはやって来て、ダニエルがその神に祈り求めているのを見届け、

6:9 そこでダリヨス王は、その禁令の文書に署名した。

6:10 ダニエルは、その文書の署名されたことを知って家に帰り、二階のへやの、エルサレムに向かって窓の開かれた所で、以前からおこなっていたように、一日に三度ずつ、ひざをかがめて神の前に祈り、かつ感謝した。

6:11 そこでその人々は集まってきて、ダニエルがその神の前に祈り、かつ求めていることを見たので、

月曜日 5月4日 祈りの姿勢

人生で何か問題が起きたとき、たいていの人には親しい友人に電話して、そのことを話します。良い知らせがあれば、それを分かち合える人を探します。私たちは、神に対しても同じことができます。「祈りとは、友だちに語るように心を神に打ち明けることです」(『キリストへの道』改訂第三版文庫版 131 ページ)。

祈りは、私たちを神と結びつけておくだけでなく、私たちが誰に属しているかを悪魔に伝えます。朝、ひざまずいて祈るとき、それは闇の勢力に対して、きょう私たちが神を選ぶことを身体で宣言するようなものです。それだけでなく、私たちが祈るとき、神は天使を私たちのそばに遣わし、私たちは強められ、闇の敵から守られます(詩編91編【詩篇91篇】)。

服従してひざまずくという身体的な行為は、へりくだりの姿勢をあらわします。椅子に座ったり、ベッドに横になったりして祈ることもできますが、ひざまずくことは、それらとはどこか違います。神の前にひざまずくとき、私たちは心を尽くして神に仕える用意があることを示し、私たちの言葉は、神が主権者であり、私たちはただ神に造られた子らにすぎないことを表明するのです。

問3 以下の聖句を読み(ダニ 6:11 [口語訳 6:10]、ルカ 22:41、使徒 7:60、9:40、20:36)、祈るときにひざまずいた人々の人生について考えてください。

聖書の時代には、立って祈ることが一般的な習慣でした(代下 20:5、6、13、サム上 1:26、ヨブ 30:20、ルカ 18:11、13)。聖書は、座って祈る人たちの例も紹介しています(サム下 7:18)。また神の前に顔を地面につけてひれ伏す人もいました。ただし、この姿勢は、祈りとはあまり関係がなく、むしろ上位者への服従と関係していました(王上 1:47、マコ 14:35)。

あなたは普段、どんな姿勢で祈っていますか。聖書は、何か特定の姿勢で祈ることを求めているわけではありませんが、姿勢は重要です。私たちの畏敬の念、内なる感情、神

に身を委ねたいという願いを、姿勢が反映するからです。ひざまずけない人もいるので、最終的に最も重要なのは、心の状態です。もしひざまずくことはできるけれど、普段はしないという人は、次回祈るときにひざまずき、それが神と過ごす時間にどう影響するか、試してみたいかかがでしょうか。

聖書は、「絶えず祈りなさい」(1テサ5:17)と勧めています。きょう、あなたが立っているとき、座しているとき、横になっているとき、歩いているとき、思いを神に向け、友人として神に語りかけてみてください。

【参考】英語テキストの英文(カットされた部分=赤字)

The Bible invites us to “pray without ceasing” (1 Thess. 5:17), **implying constancy (Col. 4:2) and perseverance (Rom. 12:12)**. Today, as you stand, sit, lie, or walk, turn your thoughts to God and talk to Him as your Friend. **Begin right now.**

聖書は「絶えず祈りなさい」(1テサ5:17)と勧めており、ひたすら祈ること(コロ4:2)と耐え忍んで祈り続けること(ロマ12:12)が求められています。きょう、あなたが立っているとき、座しているとき、横になっているとき、歩いているとき、思いを神に向け、友人として神に語りかけてみてください。今すぐ始めてください。

41

詩 91 編 (新共同訳)

91:1 いと高き神のもとに身を寄せて隠れ/全能の神の陰に宿る人よ

91:2 主に申し上げよ/「わたしの避けどころ、岩/わたしの神、依り頼む方」と。
91:3 神はあなたを救い出してください/仕掛けられた罠から、陥れる言葉から。

91:4 神は羽をもってあなたを覆い/翼の下にかばってください。神のまことは大盾、小盾。

91:5 夜、脅かすものをも/昼、飛んで来る矢をも、恐れることはない。

91:6 暗黒の中を行く疫病も/真昼に襲う病魔も

91:7 あなたの傍らに一千の人/あなたの右に一万の人が倒れるときすら/あなたを襲うことはない。

91:8 あなたの目が、それを眺めるのみ。神に逆らう者の受ける報いを見ているのみ。

91:9 あなたは主を避けどころとし/いと高き神を宿るところとした。

91:10 あなたには災難もふりかかることがなく/天幕には疫病も触れることがな

詩 91 篇 (口語訳)

91:1 いと高き者のもとにある隠れ場に住む人、全能者の陰にやどる人は

91:2 主に言うであろう、「わが避け所、わが城、わが信頼しまつるわが神」と。

91:3 主はあなたをかりゅうどのわなと、恐ろしい疫病から助け出されるからである。

91:4 主はその羽をもって、あなたをおおわれる。あなたはその翼の下に避け所を得るであろう。そのまことは大盾、また小盾である。

91:5 あなたは夜の恐ろしい物をも、昼に飛んでくる矢をも恐れることはない。

91:6 また暗やみに歩きまわる疫病をも、真昼に荒す滅びをも恐れることはない。

91:7 たとい千人はあなたのかたわらに倒れ、万人はあなたの右に倒れても、その災はあなたに近づくことはない。

91:8 あなたはただ、その目をもって見、悪しき者の報いを見るだけである。

91:9 あなたは主を避け所とし、いと高き者をすまいとしたので、

91:10 災はあなたに臨まず、悩みはあなたの天幕に近づくことはない。

い。

91:11 主はあなたのために、御使いに命じて/あなたの道のどこにおいても守らせてくださる。

91:12 彼らはあなたをその手にのせて運び/足が石に当たらないように守る。

91:13 あなたは獅子と毒蛇を踏みにじり/獅子の子と大蛇を踏んで行く。

91:14 「彼はわたしを慕う者だから/彼を災いから逃れさせよう。わたしの名を知る者だから、彼を高く上げよう。

91:15 彼がわたしを呼び求めるとき、彼に答え/苦難の襲うとき、彼と共にいて助け/彼に名誉を与えよう。

91:16 生涯、彼を満ち足らせ/わたしの救いを彼に見せよう。」

ダニ 6:11 (新共同訳)

6:11 ダニエルは王が禁令に署名したことを知っていたが、家に帰るといつものとおり二階の部屋に上がり、エルサレムに向かって開かれた窓際にひざまずき、日に三度の祈りと賛美を自分の神にささげた。

ルカ 22:41 (新共同訳)

22:41 そして自分は、石を投げて届くほどの所に離れ、ひざまずいてこう祈られた。

使徒 7:60 (新共同訳)

7:60 それから、ひざまずいて、「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。

使徒 9:40 (新共同訳)

9:40 ペトロが皆を外に出し、ひざまずいて祈り、遺体に向かって、「タビタ、起きなさい」と言うと、彼女は目を開き、ペトロを見て起き上がった。

使徒 20:36 (新共同訳)

20:36 このように話してから、パウロは皆と一緒にひざまずいて祈った。

代下 10:5、6、13 (新共同訳)

10:5 彼が、「三日たつてからまた来るがよい」と答えたので、民は立ち去った。

91:11 これは主があなたのために天使たちに命じて、あなたの歩むすべての道であなたを守られるからである。

91:12 彼らはその手で、あなたをささえ、石に足を打ちつけることのないようにする。

91:13 あなたはししと、まむしとを踏み、若いししと、へびとを足の下に踏みにじるであろう。

91:14 彼はわたしを愛して離れないゆえに、わたしは彼を助けよう。彼はわが名を知るゆえに、わたしは彼を守る。

91:15 彼がわたしを呼ぶとき、わたしは彼に答える。わたしは彼の悩みのときに、共にいて、彼を救い、彼に光栄を与えよう。

91:16 わたしは長寿をもって彼を満ち足らせ、わが救を彼に示すであろう。

ダニ 6:10 (口語訳)

6:10 ダニエルは、その文書の署名されたことを知って家に帰り、二階のへやの、エルサレムに向かって窓の開かれた所で、以前からおこなっていたように、一日に三度ずつ、ひざをかがめて神の前に祈り、かつ感謝した。

ルカ 22:41 (口語訳)

22:41 そしてご自分は、石を投げてとどくほど離れたところへ退き、ひざまずいて、祈って言われた、

使徒 7:60 (口語訳)

7:60 そして、ひざまずいて、大声で叫んだ、「主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせないで下さい」。こう言って、彼は眠りについた。

使徒 9:40 (口語訳)

9:40 ペテロはみんなの者を外に出し、ひざまずいて祈った。それから死体の方に向いて、「タビタよ、起きなさい」と言った。すると彼女は目をあげ、ペテロを見て起きなおった。

使徒 20:36 (口語訳)

20:36 こう言って、パウロは一同と共にひざまずいて祈った。

代下 10:5、6、13 (口語訳)

10:5 レハベアムは彼らに答えた、「三日の後、またわたしの所に来なさい」。そ

10:6 レハバム王は、存命中の父ソロモンに仕えていた長老たちに相談した。「この民にどう答えたらよいと思うか。」

10:13 王は彼らに厳しい回答を与えた。レハバム王は長老たちの勧めを捨て、

サム上 1:26 (新共同訳)

1:26 ハンナは言った。「祭司様、あなたは生きておられます。わたしは、ここであなたのそばに立って主に祈っていたあの女です。」

ヨブ 30:20 (新共同訳)

30:20 神よ/わたしはあなたに向かって叫んでいるのに/あなたはお答えにならない。御前に立っているのに/あなたは御覧にならない。

ルカ 18:11、13 (新共同訳)

18:11 ファリサイ派の人は立って、心の中でこのように祈った。『神様、わたしはほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。』

18:13 ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようとせず、胸を打ちながら言った。『神様、罪人のわたしを憐れんでください。』

サム下 7:18 (新共同訳)

7:18 ダビデ王は主の御前に出て座し、次のように言った。「主なる神よ、何故わたしを、わたしの家などを、ここまでお導きくださったのですか。」

王上 1:47 (新共同訳)

1:47 王の家臣も次々と来て、我らの主君、ダビデ王に祝いの言葉を述べています。『あなたの神がソロモンの名をあなたの名よりも優れたものに、ソロモンの王座をあなたの名よりも大いなるものにしてくださいますように』と。王は寝床の上でひれ伏し、

マコ 14:35 (新共同訳)

14:35 少し進んで行って地面にひれ伏し、できることなら、この苦しみの時が自分から過ぎ去るようにと祈り、

れで民は去った。

10:6 レハバム王は父ソロモンの存命中ソロモンに仕えていた長老たちに相談して言った、「あなたがたはこの民にどう返答すればよいと思いますか」。

10:13 王は荒々しく彼らに答えた。すなわちレハバム王は長老たちの勧めをすて、

サム上 1:26 (口語訳)

1:26 ハンナは言った、「わが君よ、あなたは生きておられます。わたしは、かつてここに立って、あなたの前で、主に祈った女です。」

ヨブ 30:20 (口語訳)

30:20 わたしがあなたにむかって呼ばわっても、あなたは答えられない。わたしが立っていても、あなたは顧みられない。

ルカ 18:11、13 (口語訳)

18:11 パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。』

18:13 ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようともしないで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』と。

サム下 7:18 (口語訳)

7:18 その時ダビデ王は、はいて主の前に座して言った、「主なる神よ、わたしがだれ、わたしの家が何であるので、あなたはこれまでわたしを導かれたのですか。」

王上 1:47 (口語訳)

1:47 かつ王の家来たちがきて、主君ダビデ王に祝いを述べて、『願わくは、あなたの神がソロモンの名をあなたの名よりも高くし、彼の位をあなたの位よりも大きくされますように』と言いました。そして王は床の上で拜されました。

マコ 14:35 (口語訳)

14:35 そして少し進んで行き、地にひれ伏し、もしできることなら、この時を過ぎ去らせてくださるようにと祈りつつ

Iテサ 5:17 (新共同訳)
5:17 絶えず祈りなさい。
コロ 4:2 (新共同訳)
4:2 目を覚まして感謝を込め、ひたすら祈りなさい。
ロマ 12:12 (新共同訳)
12:12 希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。

け、そして言われた、
Iテサ 5:17 (口語訳)
5:17 絶えず祈りなさい。
コロ 4:2 (口語訳)
4:2 目をさまして、感謝のうちに祈り、ひたすら祈り続けなさい。
ロマ 12:12 (口語訳)
12:12 望みをいだいて喜び、患難に耐え、常に祈りなさい。

火曜日	5月5日	エノクは歩み、語り合った
-----	------	--------------

問4 創世記 5:22～24 を読んでください。エノクについて、私たちはいったいどんなことを知っていますか。

聖書は、エノクの生涯について多くを語っていませんが、神が彼を天に取られるまでの300年間、彼が神と共に歩んだと記しています。神への変わらぬ献身が人生を決定づけるというのは、なんとすばらしいことでしょう。

私たちが知っていることの一つは、エノクが「たゆまず祈り」〔口語訳「常に祈りなさい」〕(ロマ 12:12)、日々の経験を通して信仰によって、粘り強く、神と親しくなっていたに違いないということです。彼が生きていた時代、地上はますます邪悪になっていました。エノクは神に仕えることに忙しくしていましたが、神とつながることなしに、それを十分に果たすことはできませんでした。

「エノクは、活動的を送りながらも、変わることなく神との交わりを保った。仕事が増え、忙しが増すにつれて、彼の祈りは、ますます絶え間なく、熱心になっていった。……彼は、しばらく人々の間にいて、教えと模範によって彼らのために働いたあと、ただ神だけが与えることのできる天来の知識を飢え渇くように求めて、人を避けて孤独の時を過ごすのであった。エノクは、こうして、神と交わることによって、ますます神のみかたちを反映するようになった。……不信心な者でさえ、彼の顔に刻まれた天の刻印を畏敬の念をもって見つめた」(『希望への光』45 ページ、『人類のあけぼの』第7章)。

神は私たちに、世から完全に離れて、地上で何の役にも立たない隠者や修道士のように生きることを求めておられません。エノクのように、私たちも生産的になり、周囲の必要に気づくことができます。しかし、神が私たちを通してそのすばらしい品性を反映させることがおできになるのは、私たちが安定した永続的な関係を通して神と共に歩み、語り合うことによるのみなのです。

私たちは、いつでも、どこでも祈ることができます。この地上に、神が私たちを見ておられない場所や、私たちの声を聞いておられない場所は、どこにもありません(詩編〔詩篇〕139:7～12)。私たちがどこにいても、神は常に私たちの心の叫びを聞いてく

ださいます(哀3:55~57)。それでも、ただ心の中で祈るのではなく、声に出して祈ることには意味があります。黙って祈ると、気が散ったり、一連の考えや告白を最後まで言い終えることができなかつたり、集中力を維持するのが難しくなつたりすることがあります。しかし、ささやき声であれ、普段の声であれ、声に出して祈るとき、それは神が実在し耳を傾けておられること、また私たちには神と語り合うべき具体的なことがあることを、自分自身に思い起こさせるものとなるのです。

【参考】英語テキストにある文

As you go about your day today, where or how will you whisper a prayer in communion with Jesus?

今日一日を過ごす中で、あなたはどこで、どのようにして、イエスと交わりながら祈りをささげますか。

42

創 5:22~24 (新共同訳)

5:22 エノクは、メトシエラが生まれた後、三百年神と共に歩み、息子や娘をもうけた。

5:23 エノクは三百六十五年生きた。

5:24 エノクは神と共に歩み、神が取られたのでいなくなった。

ロマ 12:12 (新共同訳)

12:12 希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。

詩 119:7~12 (新共同訳)

119:7 あなたの正しい裁きを学びまっすぐな心であなたに感謝します。

119:8 あなたの掟を守ります。どうか、お見捨てにならないでください。

119:9 どのようにして、若者は歩む道を清めるべきでしょうか。あなたの御言葉どおりに道を保つことです。

119:10 心を尽くしてわたしはあなたを尋ね求めます。あなたの戒めから/迷い出ることのないようにしてください。

119:11 わたしは仰せを心に納めていますあなたに対して過ちを犯すことのないように。

119:12 主よ、あなたをたたえます。あなたの掟を教えてください。

創 5:22~24 (口語訳)

5:22 エノクはメトセラを生んだ後、三百年、神とともに歩み、男子と女子を生んだ。

5:23 エノクの年は合わせて三百六十五歳であった。

5:24 エノクは神とともに歩み、神が彼を取られたので、いなくなった。

ロマ 12:12 (口語訳)

12:12 望みをいだいて喜び、患難に耐え、常に祈りなさい。

詩 119:7~12 (口語訳)

119:7 わたしは、あなたの正しいおきてを学ぶとき、

正しい心をもってあなたに感謝します。

119:8 わたしはあなたの定めを守ります。わたしを全くお捨てにならないでください。

119:9 若い人はどうしておのが道を清く保つことができるでしょうか。み言葉にしたがって、それを守るよりほかにありません。

119:10 わたしは心をつくしてあなたを尋ね求めます。わたしをあなたの戒めから迷い出させないでください。

119:11 わたしはあなたにむかって罪を犯すことのないように、心のうちにみ言葉をたくわえました。

119:12 あなたはほむべきかな、主よ、あなたの定めをわたしに教えてください。

哀 3:55～57 (新共同訳)

3:55 深い穴の底から/主よ、わたしは御名を呼びます。

3:56 耳を閉ざさず、この声を聞き/わたしを助け、救い出してください。

3:57 呼び求めるわたしに近づき/恐れるなどと言ってください。

哀 3:55～57 (口語訳)

3:55 主よ、わたしは深い穴からみ名を呼びました。

3:56 あなたはわが声を聞かれました、『わが嘆きと叫びに耳をふさがないでください』。

3:57 わたしがあなたに呼ばわったとき、あなたは近寄って、『恐れるな』と言われました。

水曜日 5月6日 謙遜な指導者、モーセ

エノクが神と非常に親しい関係を持っていたのは明らかですが、私たちはモーセと神との関係についてより多くのことを知ることができ、モーセが神と交わした数多くの対話の記事を読むことさえできます。この謙遜な指導者であったモーセの人生の浮き沈みをたどっていくと、彼の人生で最も重要な部分、つまり敬虔な指導者としての成功の秘訣は、神との絶え間ない交わりと揺るぎない関係であったことを、私たちは繰り返し目にします。

問5 出エジプト記 33:15～23 を読んでください。モーセと主の対話の内容と様子は、どのようなものでしたか。

神と語り合い、その声をはっきり聞くというのはどんな感じであったか、想像してみてください。イスラエルの人々が自ら神とこのように交わることを求めず、神に代わって自分たちに語ってくれるようモーセに懇願したというのは、不思議なことです(出 20:18～21)。しかし神は、まさにこの同じ山において、燃える柴でのやりとりから始まって、このことのためにモーセを準備しておられました。モーセの個人的な祈りは、ほかにも記されていますが、彼はほとんど絶えず神の前において、導きを求め、彼が率いている民のために執り成していたことがわかります。

問6 モーセは二度、家族のために執り成しをしています。彼の執り成しは、どんな状況で行われましたか。もし彼が介入して橋渡しをしなかったら、どうなっていたでしょうか。

- アロン:出エジプト記 32:1～14、31～34、申命記 9:20
- ミリアム:民数記 12:13

ミリアムとのやりとりで特に驚くべきことは、モーセ自身が彼女のひどい扱いと嫉の標的だったという点です。彼は、簡単に距離を置いて、神がミリアムとアロン

にふさわしい罰を下されるままにすることもできました。けれども、彼はすぐに姉を赦し、彼女の癒やしのために執り成したのです。モーセの行動には、罪人に対する神の赦しの恵みが力強く反映されています。

【参考】英語テキストにある文

Read Matthew 5:44 and Colossians 3:13. How can you learn to do what you're told here? Why is it important that you do?

マタイ 5:44 とコロサイ 3:13 を読んでください。ここで教えられていることを行うにはどうすればよいでしょうか。なぜそうすることが重要なのでしょうか。

43

出 33:15~23 (新共同訳)

33:15 モーセは主に言った。「もし、あなた御自身が行ってくださらないのなら、わたしたちをここから上らせないでください。」

33:16 一体何によって、わたしとあなたの民に御好意を示してくださることが分かるでしょうか。あなたがわたしたちと共に行ってくださることによってではありませんか。そうすれば、わたしとあなたの民は、地上のすべての民と異なる特別なものとなるでしょう。」

33:17 主はモーセに言われた。「わたしは、あなたのこの願いもかなえよう。わたしはあなたに好意を示し、あなたを名指しで選んだからである。」

33:18 モーセが、「どうか、あなたの栄光をお示してください」と言うと、

33:19 主は言われた。「わたしはあなたの前にすべてのわたしの善い賜物を通らせ、あなたの前に主という名を宣言する。わたしは恵もうとする者を恵み、憐れもうとする者を憐れむ。」

33:20 また言われた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」

33:21 更に、主は言われた。「見よ、一つの場所がわたしの傍らにある。あなたはその岩のそばに立ちなさい。」

33:22 わが栄光が通り過ぎるとき、わたしはあなたをその岩の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまで、わたしの手であなたを覆う。

出 33:15~23 (口語訳)

33:15 モーセは主に言った「もしあなた自身が一緒に行かれないならば、わたしたちをここからのぼらせないでください。」

33:16 わたしとあなたの民とが、あなたの前に恵みを得ることは、何によって知られましょうか。それはあなたがわたしたちと一緒にいかれて、わたしとあなたの民とが、地の面にある諸民と異なるものになるからではありませんか。」

33:17 主はモーセに言われた、「あなたはわたしの前に恵みを得、またわたしは名をもってあなたを知るから、あなたの言ったこの事をもするであろう。」

33:18 モーセは言った、「どうぞ、あなたの栄光をわたしにお示してください。」

33:19 主は言われた、「わたしはわたしのもろもろの善をあなたの前に通らせ、主の名をあなたの前にのべるであろう。わたしは恵もうとする者を恵み、あわれもうとする者をあわれむ。」

33:20 また言われた、「しかし、あなたはわたしの顔を見ることはできない。わたしを見て、なお生きている人はないからである。」

33:21 そして主は言われた、「見よ、わたしのかたわらに一つの所がある。あなたは岩の上に立ちなさい。」

33:22 わたしの栄光がそこを通り過ぎるとき、わたしはあなたを岩の裂け目に入れて、わたしが通り過ぎるまで、手であなたをおおうであろう。」

33:23 わたしが手を離すとき、あなたはわたしの後ろを見るが、わたしの顔は見えない。」

出 20:18~20 (新共同訳)

20:18 民全員は、雷鳴がとどろき、稲妻が光り、角笛の音が鳴り響いて、山が煙に包まれる有様を見た。民は見て恐れ、遠く離れて立ち、

20:19 モーセに言った。「あなたがわたしたちに語ってください。わたしたちは聞きます。神がわたしたちにお語りにならないようにしてください。そうでないと、わたしたちは死んでしまいます。」

20:20 モーセは民に答えた。「恐れることはいない。神が来られたのは、あなたたちを試すためであり、また、あなたたちの前に神を畏れる畏れをおいて、罪を犯させないようにするためである。」

出 32:1~14 (新共同訳)

32:1 モーセが山からなかなか下りて来ないのを見て、民がアロンのもとに集まって来て、「さあ、我々に先立って進む神々を造ってください。エジプトの国から我々を導き上った人、あのモーセがどうなってしまったのか分からないからです」と言う、

32:2 アロンは彼らに言った。「あなたたちの妻、息子、娘らが着けている金の耳輪をはずし、わたしのところに持って来なさい。」

32:3 民は全員、着けていた金の耳輪をはずし、アロンのところに持って来た。

32:4 彼はそれを受け取ると、のみで型を作り、若い雄牛の鑄像を造った。すると彼らは、「イスラエルよ、これこそあなたをエジプトの国から導き上ったあなたの神々だ」と言った。

32:5 アロンはこれを見て、その前に祭壇を築き、「明日、主の祭りを行う」と宣言した。

32:6 彼らは次の朝早く起き、焼き尽くす献げ物をささげ、和解の献げ物を供えた。民は座って飲み食いし、立っては戯れた。

32:7 主はモーセに仰せになった。「直ちに下山せよ。あなたがエジプトの国から導き上った民は墮落し、

33:23 そしてわたしが手をのけると、あなたはわたしのうしろを見るが、わたしの顔は見ないであろう。」

出 20:18~20 (口語訳)

20:18 民は皆、かみなりと、いなずまと、ラッパの音と、山の煙っているのを見た。民は恐れおののき、遠く離れて立った。

20:19 彼らはモーセに言った、「あなたがわたしたちに語ってください。わたしたちは聞き従います。神がわたしたちに語られぬようにしてください。それではなければ、わたしたちは死ぬでしょう。」

20:20 モーセは民に言った、「恐れてはならない。神はあなたがたを試みるため、またその恐れをあなたがたの目の前に置いて、あなたがたが罪を犯さないようにするために臨まれたのである。」

出 32:1~14 (口語訳)

32:1 民はモーセが山を下ることのおそいものを見て、アロンのもとに集まって彼に言った、「さあ、わたしたちに先立って行く神を、わたしたちのために造ってください。わたしたちをエジプトの国から導きのぼった人、あのモーセはどうなったのか分からないからです」。

32:2 アロンは彼らに言った、「あなたがたの妻、むすこ、娘らの金の耳輪をはずしてわたしに持ってきなさい」。

32:3 そこで民は皆その金の耳輪をはずしてアロンのもとに持ってきた。

32:4 アロンがこれを彼らの手から受け取り、工具で型を造り、鑄て子牛としたので、彼らは言った、「イスラエルよ、これはあなたをエジプトの国から導きのぼったあなたの神である」。

32:5 アロンはこれを見て、その前に祭壇を築いた。そしてアロンは布告して言った、「あすは主の祭である」。

32:6 そこで人々はあくる朝早く起きて燔祭をささげ、酬恩祭を供えた。民は座して食い飲みし、立って戯れた。

32:7 主はモーセに言われた、「急いで下りなさい。あなたがエジプトの国から導きのぼったあなたの民は悪いことをした。

32:8 早くもわたしが命じた道からそれて、若い雄牛の鑄像を造り、それにひれ伏し、いけにえをささげて、『イスラエルよ、これこそあなたをエジプトの国から導き上った神々だ』と叫んでいる。」

32:9 主は更に、モーセに言われた。「わたしはこの民を見てきたが、実にかたくなな民である。

32:10 今は、わたしを引き止めるな。わたしの怒りは彼らに対して燃え上がっている。わたしは彼らを滅ぼし尽くし、あなたを大いなる民とする。」

32:11 モーセは主なる神をなだめて言った。「主よ、どうして御自分の民に向かって怒りを燃やされるのですか。あなたが大いなる御力と強い御手をもってエジプトの国から導き出された民ではありませんか。」

32:12 どうしてエジプト人に、『あの神は、悪意をもって彼らを山で殺し、地上から滅ぼし尽くすために導き出した』と言わせてよいのでしょうか。どうか、燃える怒りをやめ、御自分の民にくだす災いを思い直してください。

32:13 どうか、あなたの僕であるアブラハム、イサク、イスラエルを思い起こしてください。あなたは彼らに自ら誓って、『わたしはあなたたちの子孫を天の星のように増やし、わたしが与えると約束したこの土地をことごとくあなたたちの子孫に授け、永久にそれを継がせる』と言われたではありませんか。」

32:14 主は御自身の民にくだす、と告げられた災いを思い直された。

出 32:31～34 (新共同訳)

32:31 モーセは主のもとに戻って言った。「ああ、この民は大きな罪を犯し、金の神を造りました。

32:32 今、もしもあなたが彼らの罪をお赦しくださるのであれば……。もし、それがかなわなければ、どうかこのわたしをあなたが書き記された書の中から消し去ってください。」

32:33 主はモーセに言われた。「わたしに罪を犯した者はだれでも、わたしの書から消し去る。34 しかし今、わたしがあな

32:8 彼らは早くもわたしが命じた道を離れ、自分のために鑄物の子牛を造り、これを拝み、これに犠牲をささげて、『イスラエルよ、これはあなたをエジプトの国から導きのぼったあなたの神である』と言っている。

32:9 主はまたモーセに言われた、「わたしはこの民を見た。これはかたくなな民である。

32:10 それで、わたしをとめるな。わたしの怒りは彼らにむかって燃え、彼らを滅ぼしつくすであろう。しかし、わたしはあなたを大いなる国民とするであろう。」

32:11 モーセはその神、主をなだめて言った、「主よ、大いなる力と強き手をもって、エジプトの国から導き出されたあなたの民にむかって、なぜあなたの怒りが燃えるのでしょうか。」

32:12 どうしてエジプトびとに『彼は悪意をもって彼らを導き出し、彼らを山地で殺し、地の面から断ち滅ぼすのだ』と言わせてよいのでしょうか。どうかあなたの激しい怒りをやめ、あなたの民に下さるとされるこの災を思い直し、

32:13 あなたのしもべアブラハム、イサク、イスラエルに、あなたが御自身をさして誓い、『わたしは天の星のように、あなたがたの子孫を増し、わたしが約束したこの地を皆あなたがたの子孫に与えて、長くこれを所有させるであろう』と彼らに仰せられたことを覚えてください。」

32:14 それで、主はその民に下すと言われた災について思い直された。

出 32:31～34 (口語訳)

32:31 モーセは主のもとに戻って、そして言った、「ああ、この民は大いなる罪を犯し、自分のために金の神を造りました。

32:32 今もしあなたが、彼らの罪をゆるされますならば……。しかし、もしかなわなければ、どうぞあなたが書きしるされたふみから、わたしの名を消し去ってください。」

32:33 主はモーセに言われた、「すべてわたしに罪を犯した者は、これをわたしのふみから消し去るであろう。34 しかし、

たに告げた所にこの民を導いて行きなさい。見よ、わたしの使いがあなたに先立って行く。しかし、わたしの裁きの日に、わたしは彼らをその罪のゆえに罰する。」

申 9:20 (新共同訳)

9:20 アロンに対しても、主は激しく怒って滅ぼそうとされたが、わたしはそのとき、アロンのためにも祈った。

民 12:13 (新共同訳)

12:13 モーセは主に助けを求めて叫んだ。「神よ、どうか彼女をいやしてください。」

マタ 5:44 (新共同訳)

5:44 しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。

コロ 3:13 (新共同訳)

13:13 互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。

今あなたは行って、わたしがあなたに告げたところに民を導きなさい。見よ、わたしの使はあなたに先立って行くであろう。ただし刑罰の日に、わたしは彼らの罪を罰するであろう。」

申 9:20 (口語訳)

9:20 主はまた、はなはだしくアロンを怒って、彼を滅ぼそうとされたが、わたしはその時もまたアロンのために祈った。

民 12:13 (口語訳)

12:13 その時モーセは主に呼ばわって言った、「ああ、神よ、どうぞ彼女をいやしてください。」

マタ 5:44 (口語訳)

5:44 しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ。

コロ 3:13 (口語訳)

13:13 互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。

木曜日 5月7日 民のために執り成すモーセ

問7 出エジプト記 32:31、32 を読んでください。この箇所は、モーセと祈りについて、どんなことを教えてくださいか。

モーセは神の民のために、何度も大胆に執り成しをしました。民が渴いたとき(出 15:25、17:2~6)、飢えたとき(民 11:21、22)、自暴自棄に陥ったとき(同 11:11~15)、モーセは神に頼りました。

神がイスラエルの人々と契約を結んだ直後に、彼らが金の子牛を造ったときのことを、モーセはこう回想しています——「わたしは、主が激しく怒りに燃え、あなたたちを滅ぼされるのではないかと恐れたが、主はこのときも、わたしに耳を傾けてくださった」〔口語訳「主は怒りを発し、憤りを起し、あなたがたを怒って滅ぼそうとされたので、わたしは恐れたが、その時もまた主はわたしの願いを聞かれた」〕(申 9:19)。

丘候たちが約束の地から帰還したときのことを、モーセはこう回想しています——「わたしは、四十日四十夜、主の御前にひれ伏した。主があなたたちを滅ぼすと言われたからである」〔口語訳「そしてわたしは、さきにひれ伏したように、四十日四十夜、主の前にひれ伏した。主があなたたちを滅ぼすと言われたからである」〕(申 9:25)。

レビ族が聖所で奉仕するためにほかの部族から選り分けられたときのことを、彼はこう回想しています——「わたしは前と同じように、四十日四十夜、山にとどまっていたが、このときも主はわたしに耳を傾け、あなたを滅ぼそうとはされなかった」〔口語訳「わたしは前の時のように四十日四十夜、山におったが、主はその時にもわたしの願いを聞かれた。主はあなたを滅ぼすことを望まれなかった」〕(申 10:10)。神はモーセの願いを聞いてくださったのです。

祈りと、神により頼むことについて、私たちはモーセの生涯から多くのことを学ぶことができます。

- **モーセは神を深く愛し、ご品性をはっきり理解していました。**神はモーセに、ご自分をこう説明なさいました。「主、主、憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ち(る者)」〔口語訳「主、主、あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神」〕(出 34:6)。
- **モーセは、約束の地までのつらい道のりの中で、浮き沈みを経験しながらも神に頼り、大胆かつ忠実であり続けました。**私たちがみなそうであるように、モーセは、自分の人生における神の力、臨在、導きを信じたのです(出 33:13)。
- **モーセは、神が〔過去に〕誓われたことを神に思い起こさせ(出 32:13)、神が約束されたことを神の民に代わって主張し(申 7:8)、過去における神の導きを思い起こしました(同 8:2)。**
- **モーセは、自分の祈りに対する神の答えを、それが「はい」であれ、「いいえ」であれ、受け入れました。**神と親しい関係にあるからといって、必ずしも望むものが与えられるわけではありません(申 3:23~29)。しかし私たちは、とにかく粘り強く祈るべきです(ルカ 18:1~8)。

今、あなたの執り成しの祈りを必要としているのは誰ですか。

【参考】英語テキストの英文(カットされた文=赤字)

Who needs your intercessory prayers right now? What is stopping you from praying right now?

今、あなたの執り成しの祈りを必要としているのは誰ですか。今、あなたが祈るのを妨げているものは何ですか。

44

出 32:31、32 (新共同訳)

32:31 モーセは主のもとに戻って言った。「ああ、この民は大きな罪を犯し、金の神を造りました。

32:32 今、もしもあなたが彼らの罪をお赦しくださるのであれば……。もし、それがかなわなければ、どうかこのわたしをあなたが書き記された書の中から消し

出 32:31、32 (口語訳)

32:31 モーセは主のもとに帰って、そして言った、「ああ、この民は大いなる罪を犯し、自分のために金の神を造りました。32:32 今もしあなたが、彼らの罪をゆるされますならば……。しかし、もしかなわなければ、どうぞあなたが書きしるされたふみから、わたしの名を消し去って

去ってください。

出 15:25 (新共同訳)

15:25 モーセが主に向かって叫ぶと、主は彼に一本の木を示された。その木を水に投げ込むと、水は甘くなった。その所で主は彼に掬と法とを与えられ、またその所で彼を試みて、

出 17:2~6 (新共同訳)

17:2 民がモーセと争い、「我々に飲み水を与えよ」と言う、モーセは言った。「なぜ、わたしと争うのか。なぜ、主を試すのか。」

17:3 しかし、民は喉が渴いてしかたないので、モーセに向かって不平を述べた。「なぜ、我々をエジプトから導き上ったのか。わたしも子供たちも、家畜までも渴きで殺すためなのか。」

17:4 モーセは主に、「わたしはこの民をどうすればよいのですか。彼らは今にも、わたしを石で打ち殺そうとしています」と叫ぶと、

17:5 主はモーセに言われた。「イスラエルの長老数名を伴い、民の前を進め。また、ナイル川を打った杖を持って行くがよい。」

17:6 見よ、わたしはホレブの岩の上であなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。そこから水が出て、民は飲むことができる。」モーセは、イスラエルの長老たちの目の前でそのとおりにした。

民 11:21、22 (新共同訳)

11:21 モーセは言った。「わたしの率いる民は男だけで六十万人居ます。それなのに、あなたは、『肉を彼らに与え、一か月の間食べさせよう』と言われます。」

11:22 しかし、彼らのために羊や牛の群れを屠れば、足りるのでしょうか。海の魚を全部集めれば、足りるのでしょうか。」

申 9:19 (新共同訳)

9:19 わたしは、主が激しく怒りに燃え、あなたたちを滅ぼされるのではないかと恐れたが、主はこのときも、わたしに耳を傾けてくださった。

ください。」

出 15:25 (口語訳)

15:25 モーセは主に叫んだ。主は彼に一本の木を示されたので、それを水に投げ入れると、水は甘くなった。その所で主は民のために定めと、おきてを立てられ、彼らを試みて、

出 17:2~6 (口語訳)

17:2 それで、民はモーセと争って言った、「わたしたちに飲む水をください」。モーセは彼らに言った、「あなたがたはなぜわたしと争うのか、なぜ主を試みるのか。」

17:3 民はその所で水にかわき、モーセにつぶやいて言った、「あなたはなぜわたしをエジプトから導き出して、わたしたちを、子供や家畜と一緒に、かわきによって死なせようとするのですか。」

17:4 このときモーセは主に叫んで言った、「わたしはこの民をどうすればよいのでしょうか。彼らは、今にも、わたしを石で打ち殺そうとしています」。

17:5 主はモーセに言われた、「あなたは民の前に進み行き、イスラエルの長老たちを伴い、あなたがナイル川を打った、つえを手にとって行きなさい。」

17:6 見よ、わたしはホレブの岩の上であなたの前に立つであろう。あなたは岩を打ちなさい。水がそれから出て、民はそれを飲むことができる。」モーセはイスラエルの長老たちの目の前で、そのように行った。

民 11:21、22 (口語訳)

11:21 モーセは言った、「わたしと共におる民は徒歩の男子だけでも六十万です。ところがあなたは、『わたしは彼らに肉を与えて一か月のあいだ食べさせよう』と言われます。」

11:22 羊と牛の群れを彼らのためにほふって、彼らを飽きさせるというのですか。海のすべての魚を彼らのために集めて、彼らを飽きさせるというのですか。」

申 9:19 (口語訳)

9:19 主は怒りを発し、憤りを起し、あなたがたを怒って滅ぼそうとされたので、わたしは恐れたが、その時もまた主はわたしの願いを聞かれた。

申 9:25 (新共同訳)

9:25 わたしは、四十日四十夜、主の御前にひれ伏した。主があなたたちを滅ぼすと言われたからである。わたしはひれ伏して、

申 10:10 (新共同訳)

10:10 わたしは前と同じように、四十日四十夜、山にとどまっていたが、このときも主はわたしに耳を傾け、あなたを滅ぼそうとはされなかった。

出 34:6 (新共同訳)

34:6 主は彼の前を通り過ぎて宣言された。「主、主、憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ち、

出 33:13 (新共同訳)

33:13 お願いします。もしあなたがわたしに御好意を示してくださるのでしたら、どうか今、あなたの道をお示してください。そうすれば、わたしはどのようにして、あなたがわたしに御好意を示してくださるか知りうるでしょう。どうか、この国民があなたの民であることも目にお留めください。」

出 32:13 (新共同訳)

32:13 どうか、あなたの僕であるアブラハム、イサク、イスラエルを思い起こしてください。あなたは彼らに自ら誓って、『わたしはあなたたちの子孫を天の星のように増やし、わたしが与えると約束したこの土地をことごとくあなたたちの子孫に授け、永久にそれを継がせる』と言われたではありませんか。」

申 7:8 (新共同訳)

7:8 ただ、あなたに対する主の愛のゆえに、あなたたちの先祖に誓われた誓いを守られたゆえに、主は力ある御手をもってあなたたちを導き出し、エジプトの王、ファラオが支配する奴隷の家から救い出されたのである。

申 8:2 (新共同訳)

8:2 あなたの神、主が導かれたこの四十年の荒野の旅を思い起こしなさい。こうして主はあなたを苦しめて試し、あなたの心にあること、すなわち御自分の戒めを守るかどうかを知ろうとされた。

申 9:25 (口語訳)

9:25 そしてわたしは、さきにひれ伏したように、四十日四十夜、主の前にひれ伏した。主があなたがたを滅ぼすと言われたからである。

申 10:10 (口語訳)

10:10 わたしは前の時のように四十日四十夜、山におったが、主はその時にもわたしの願いを聞かれた。主はあなたを滅ぼすことを望まれなかった。

出 34:6 (口語訳)

34:6 主は彼の前を過ぎて宣べられた。「主、主、あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、

出 33:13 (口語訳)

33:13 それで今、わたしがもし、あなたの前に恵みを得ますならば、どうか、あなたの道を示し、あなたをわたしに知らせ、あなたの前に恵みを得させてください。また、この国民があなたの民であることを覚えてください。」

出 32:13 (口語訳)

32:13 あなたのしもべアブラハム、イサク、イスラエルに、あなたが御自身をさして誓い、『わたしは天の星のように、あなたがたの子孫を増し、わたしが約束したこの地を皆あなたがたの子孫に与えて、長くこれを所有させるであろう』と彼らに仰せられたことを覚えてください。」

申 7:8 (口語訳)

7:8 ただ主があなたがたを愛し、またあなたがたの先祖に誓われた誓いを守ろうとして、主は強い手をもってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王パロの手から、あがない出されたのである。

申 8:2 (口語訳)

8:2 あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならない。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。

申 3:23~29 (新共同訳)

3:23 わたしは、そのとき主に祈り求めた。
3:24 「わが主なる神よ、あなたは僕であるわたしにあなたの大きいこと、力強い働きを示し始められました。あなたのように力ある業をなすうる神が、この天と地のどこにありましようか。

3:25 どうか、わたしにも渡って行かせ、ヨルダン川の向こうの良い土地、美しい山、またレバノン山を見せてください。」

3:26 しかし主は、あなたたちのゆえにわたしに向かって憤り、祈りを聞こうとされなかった。主はわたしに言われた。「もうよい。この事を二度と口にしてはならない。

3:27 ピスガの頂上に登り、東西南北を見渡すのだ。お前はこのヨルダン川を渡って行けないのだから、自分の目でよく見ておくがよい。

3:28 ヨシアを任務に就け、彼を力づけ、励ましなさい。彼はこの民の先頭に立って、お前が今見ている土地を、彼らに受け継がせるであろう。」

3:29 我々はこうして、ベト・パオルの前にある谷に滞在していた。

ルカ 18:1~8 (新共同訳)

18:1 イエスは、気を落とさずに絶えず祈らなければならないことを教えるために、弟子たちにたとえを話された。

18:2 「ある町に、神を恐れず人を人とも思わない裁判官がいた。

18:3 ところが、その町に一人のやもめがいて、裁判官のところに来ては、『相手を裁いて、わたしを守ってください』と言っていた。

18:4 裁判官は、しばらくの間は取り合おうとしなかった。しかし、その後考えた。『自分は神など恐れないうる、人を人とも思わない。

18:5 しかし、あのやもめは、うるさくてかなわないから、彼女のために裁判をしてやろう。さもないと、ひっきりなしにやって来て、わたしをさんざんな目に遭わすにちがいない。』

申 3:23~29 (口語訳)

3:23 その時わたしは主に願って言った、
3:24 『主なる神よ、あなたの大きい事と、あなたの強い手とを、たった今、しもべに示し始められました。天にも地にも、あなたのようなわざをなし、あなたのような力あるわざのできる神が、ほかにありましようか。

3:25 どうぞ、わたしにヨルダンを渡って行かせ、その向こう側の良い地、あの良い山地、およびレバノンを見ることのできるようにしてください。』

3:26 しかし主はあなたがたのゆえにわたしを怒り、わたしに聞かれなかった。そして主はわたしに言われた、『おまえはもはや足りている。この事については、重ねてわたしに言ってはならない。

3:27 おまえはピスガの頂に登り、目をあげて西、北、南、東を望み見よ。おまえはこのヨルダンを渡ることができないからである。

3:28 しかし、おまえはヨシアに命じ、彼を励まし、彼を強くせよ。彼はこの民に先立って渡って行き、彼らにおまえの見る地を継がせるであろう。』

3:29 こうしてわれわれはベテパオルに対する谷にとどまっていた。

ルカ 18:1~8 (口語訳)

18:1 また、イエスは失望せずに常に祈るべきことを、人々に譬で教えられた。

18:2 「ある町に、神を恐れず、人を人とも思わぬ裁判官がいた。

18:3 ところが、その同じ町にひとりのやもめがいて、彼のもとにたびたびきて、『どうぞ、わたしを訴える者をさばいて、わたしを守ってください』と願いつづけた。

18:4 彼はしばらくの間きき入れないでいたが、そののち、心のうちで考えた、『わたしは神をも恐れず、人を人とも思わないが、

18:5 このやもめがわたしに面倒をかけるから、彼女のためになる裁判をしてやろう。そしたら、絶えずやってきてわたしを悩ますことがなくなるだろう。』

18:6 それから、主は言われた。「この不正な裁判官の言いぐさを聞きなさい。

18:7 まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあるか。

18:8 言うておくが、神は速やかに裁いてくださる。しかし、人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうか。」

18:6 そこで主は言われた、「この不義な裁判官の言っていることを聞いたか。

18:7 まして神は、日夜叫び求める選民のために、正しいさばきをしてくださらずに長い間そのままにしておかれることがあるか。

18:8 あなたがたに言うておくが、神はすみやかにさばいてくださるであろう。しかし、人の子が来るとき、地上に信仰が見られるであろうか。」

金曜日 5月8日 さらなる研究

結局のところ、私たちが祈るのは、神を深く愛しており、人生の喜びや「勝利」、重荷や悩み、願いや日々の必要など、人生のあらゆることを神と分かち合わずにはいられないからです。「もし私たちが神のそば近くにいれば、どんな試みが不意に襲ってきても、ちょうど花が太陽のほうを自然に向いているように、私たちの心も神に向くようになります。

どんな望み、喜び、悲しみ、わずらい、恐れもみな、神の前に置きましょう。神は重荷で苦しんだり、疲れたりなさいません。頭の髪の毛でさえ数えられる神は、子どもたちの必要に無関心でありません。……愛に満ちた神のみ心は、私たちが悲しみを口にすることにさえ、心を痛められます。心をわずらわすことは何でも神に申し上げましょう。神は諸世界を支え、宇宙のすべてを支配しておられるのですから、神にとって重すぎて負いきれないものではありません。私たちの平和に関わることであれば何でも、小さすぎてお気づきにならないことはありません。私たちのどんなに暗い経験も、暗すぎてお読みになれないことはありません。また、どんなに難しい問題も、神には解釈できないということがありません。神の子らのごく小さい者に降りかかる災いも、心を悩ます不安も、喜びの声も、くちびるからほとぼしる真剣な祈りも、天の父はことごとく注意し、深い関心を払っておられるのです。……神と各々の魂との関係は、あたかも神がただ1人を見守られるかのように、あたかも神がただ1人のために愛するみ子を与えられたかのように、はっきりとした完全なものです」(『キリストへの道』改訂第三版文庫版 142、143 ページ)。

話し合いのための質問

- ① あなたにとって、祈りはすばらしいものですか。それとも、重荷ですか。あなたの見方に影響を与えたのは何ですか。

- ② 金曜日の引用文には、洞察に満ちた多くのメッセージが含まれています。特にあなたの心に響くのは、どの考えですか。
- ③ 今週学んだ3人の聖書の登場人物(ダニエル、エノク、モーセ)のうち、誰の祈りの生活に最も共感しますか。それはなぜですか。

話し合いのためのヒント:聖書に登場する祈りの巨人について知るとき、私たちは神とそれほど親しい関係を持つことはできないとか、それほど献身的にはなれないと考えがちです。しかし、私たちにもできます。ダニエルのように、反対されても、毎日ひざまずき、エノクのように、神から命じられたことを行うために、神に頼むことができます。モーセのように、全能者の陰に宿ることを選ぶなら、周囲の人々を導き、家族や地域の人々のために執り成すことができるのです。